

第1回 走りやすくにぎわう高松中央通りを目指す委員会

中央通りおよび周辺エリアの
現状・動向について

平成28年12月



目次

1. 中央通りの整備等の経緯	2
2. 中央通り周辺エリアの動向	3
3. 中央通りの現状・問題点	15
4. 中央通りの機能向上・にぎわい創出に向けて	23

1. 中央通りの整備等の経緯

高松の発展を支え、まちと共に変化

○中央通りの誕生 ～高松近代化の礎～

- ・1925年 皇太子御成婚の記念道路として玉藻町-兵庫町に開通。この時、街灯104灯が市費によって整備。旧桜の馬場の西半分は中堀も含めて埋め立てられ、道路に沿って城内の施設も取り払われる。
- ・道路に面した寿町周辺には、大企業の支店が次々に進出。
- ・戦前までに中新町ロータリーまでの整備がされていた。

○戦後 ～復興のシンボル～

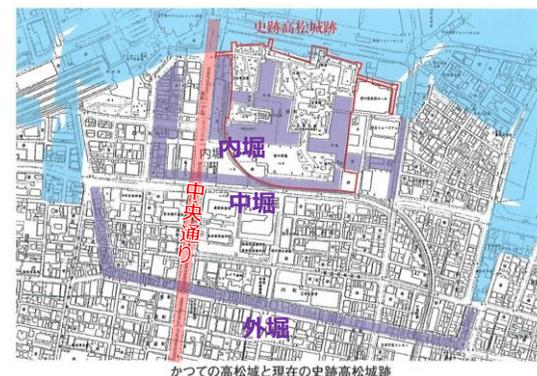
- ・1945年 車社会の到来を見越した戦災復興都市計画として、築港から栗林を幅員100mとする原案を高松市が立案したが、理想にすぎないとして幅員50mとする第一次案で戦災復興院の許可を得た。
- ・しかし、第一次案に対し市民による反対運動等が発生。市が協議会を設置して検討し、幅員を36mとする最終案を決定、整備。
- ・1949年に開催された「観光高松大博覧会」を記念し、高松市の呼びかけにより企業がクスノキの苗木を寄贈。中央分離帯にクスノキ214本を植樹。クスノキ並木は高松観光のシンボルとして生長。
- ・1950年より、中央通りの480mを皮切りに、市内幹線道路の舗装を順次実施。

○昭和から平成 ～都市景観・歩行空間の創出へ～

- ・1986年 道路と沿道が一体となったバランスのとれた都市景観整備等を目的とした、「クリエイティブ高松・中央通りプロムナード計画」が策定される。
- ・同年、クスノキ並木の上天神町までの延長工事を開始。
- ・1990年 高松駅から栗林公園までの電線類地中化、カラー歩道、番町交差点地下道等が完成。

【参考】「香川歴史年表」四国新聞社（H9）
「高松今昔写真帖—保存版」郷土出版社（H20）
「高松百年史・下巻」高松百年史編集室（S63-H2）
「高松百年の歴史」高松百年史編集室（H2）
「工事報告・クリエイティブ高松中央通りプロムナード事業」土木技術46巻3号
「香川河川国道事務所 60年のあゆみ」四国建設弘済会（H6）

▼中央通りの位置



かつての高松城と現在の史跡高松城跡
【資料】「史跡 高松城跡（玉藻公園）」高松市

▼クスノキが植樹された中央通り



【写真】高松市

▼現在の中央通り



2. 中央通り周辺エリアの動向 – 周辺エリアの関連動向

近年、まちのにぎわいに関する動きが活発化

■ 岸壁整備・クルーズ船寄港



【写真】観光庁・香川県

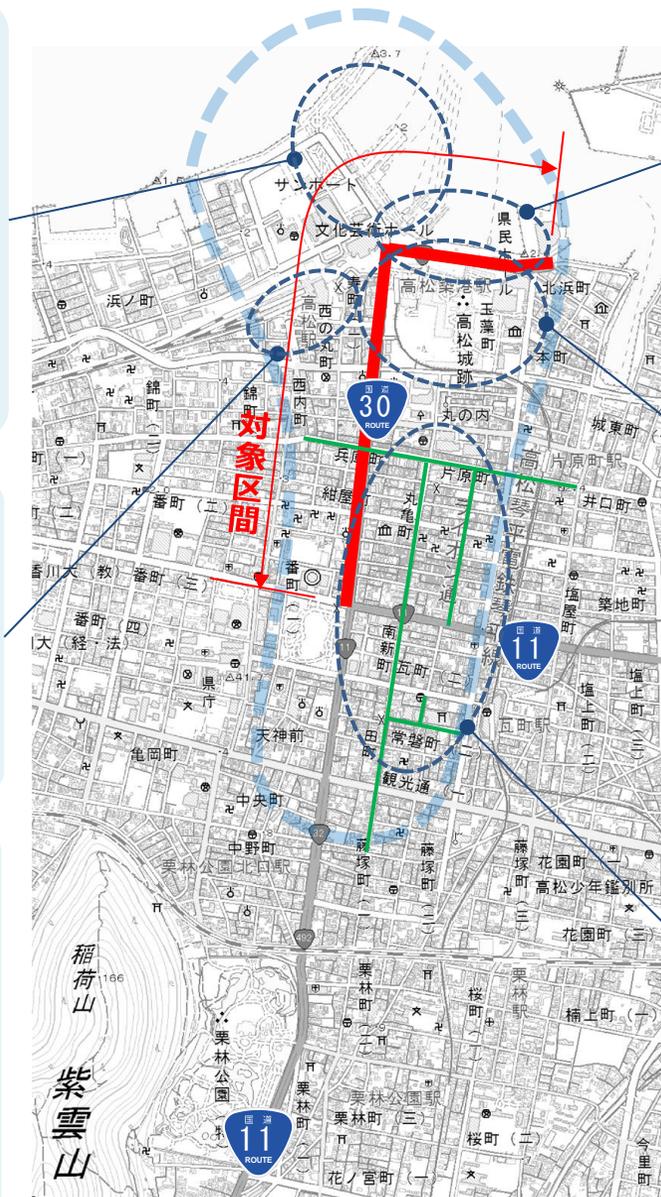
■ 高松駅の整備・利便性向上



■ 高松空港の国際線増加



【写真】香川県



凡例 — 高松中央商店街

【地図】国土地理院

■ 高松港玉藻地区の整備



■ 高松城天守の復元への取り組み



■ 中心市街地の再開発



■ 無料Wi-Fi環境整備 (H28.3~)



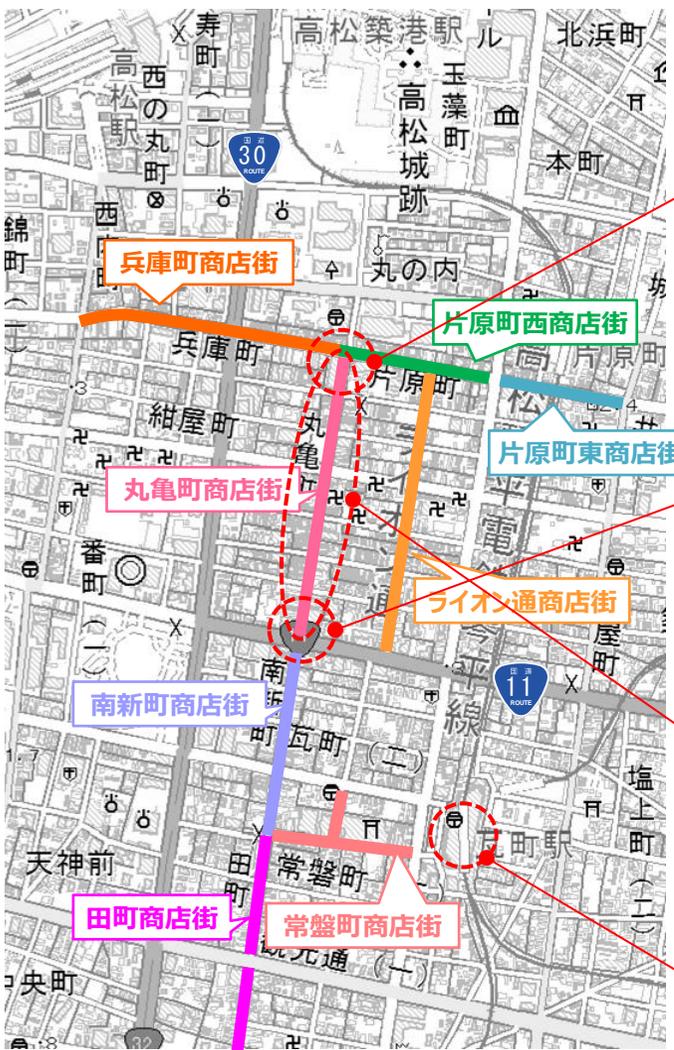
利用可能箇所
 ・サンポート高松
 ・高松中央商店街
 ・ことん瓦町駅
 ・高松空港

利用環境
 ・30分/回
 ・回数制限なし

2. 中央通り周辺エリアの動向 – 中心市街地活性化の取り組み

中央商店街再開発等による、まちなかのにぎわい創出

▼高松中央商店街



【地図】国土地理院

▼丸亀町商店街A街区再開発 (H18)



▼丸亀町商店街G街区再開発 (H24)



▼丸亀町商店街自転車乗り入れ禁止化 (H24)

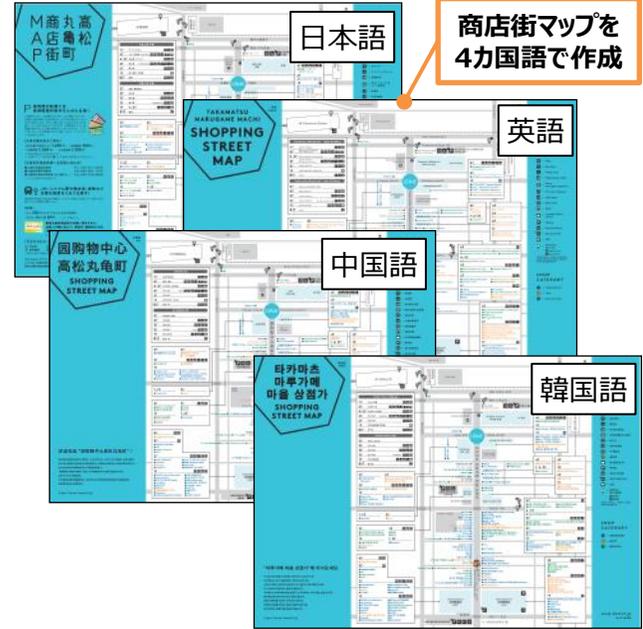


▼瓦町FLAGオープン (H27)



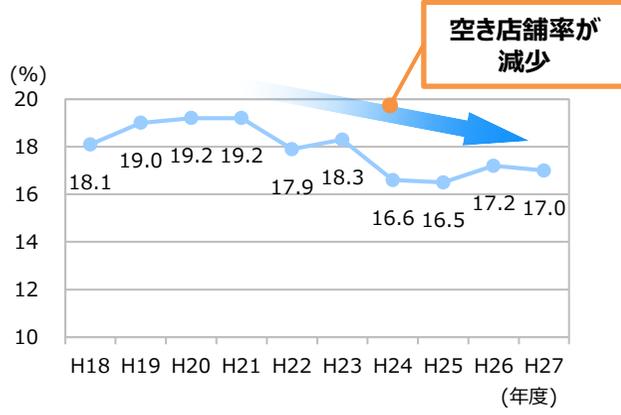
【写真】瓦町FLAGfacebookページ

▼多言語に対応した商店街マップ (丸亀町)



【資料】高松丸亀町商店街振興組合HP

▼中央商店街空き店舗率の推移

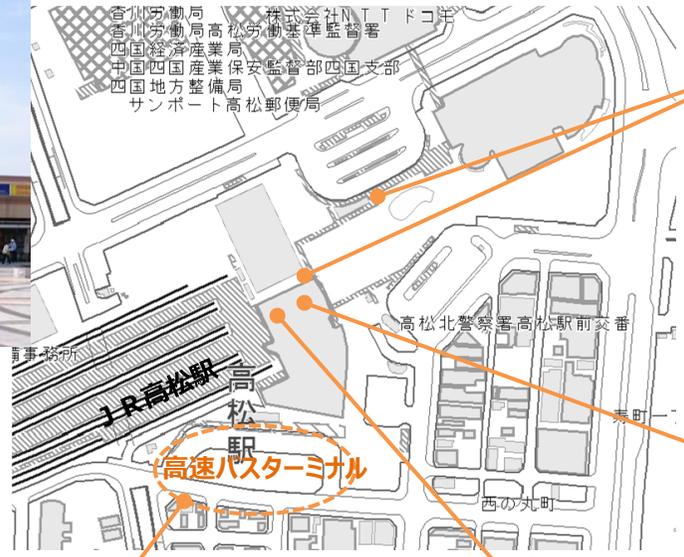


【データ】高松市HP

2. 中央通り周辺エリアの動向 – 交通拠点等の整備・利用拡大

高松駅の整備が進み、利便性が向上

▼駅前広場



▼バス案内表示板 (H28)



駅利用者の動線を考慮し、駅構内およびバスターミナルに設置

▼観光ガイド (H28)



6言語の表示に対応し、表示された情報を手元のスマートフォンで持ち出せる機能も備える

▼高速バスターミナル (H25)



サンポート高松の交通結節機能の強化と交通の円滑化を図るため、高松駅南側に新たな高速バスターミナルと一般送迎用駐車場を整備

▼観光インフォメーション (H28)

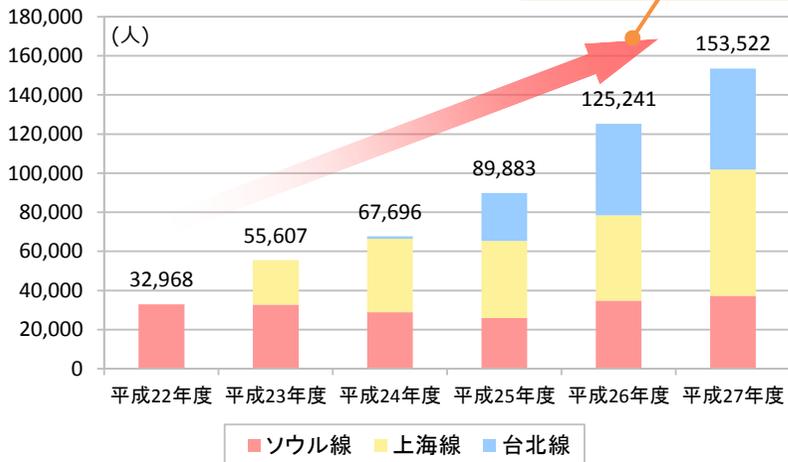


常時3カ国語(英・中・韓)に対応し、四国だけでなく、近畿や中国地方など全国の観光情報を発信 (9~20時)

2. 中央通り周辺エリアの動向 – 交通拠点等の整備・利用拡大

高松空港に国際線が複数就航、利用者が急増

▼高松空港の国際線利用者数の推移



各国便の就航とともに
利用者が増加

○エアソウル航空 (ソウル)



○春秋航空 (上海)

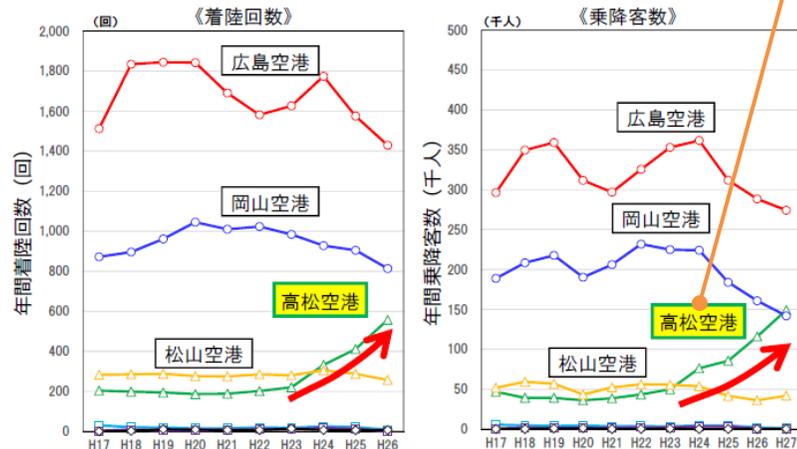


○チャイナエアライン (台北)



▼周辺地域の空港との比較

◆国際線の着陸回数・乗降客数の推移



増加率が
周辺地域に比べて
高い

【資料】環瀬戸内海地域交流促進協議会資料 (H28.5)

▼香港線就航セレモニー (H28)

【データ】香川県HP

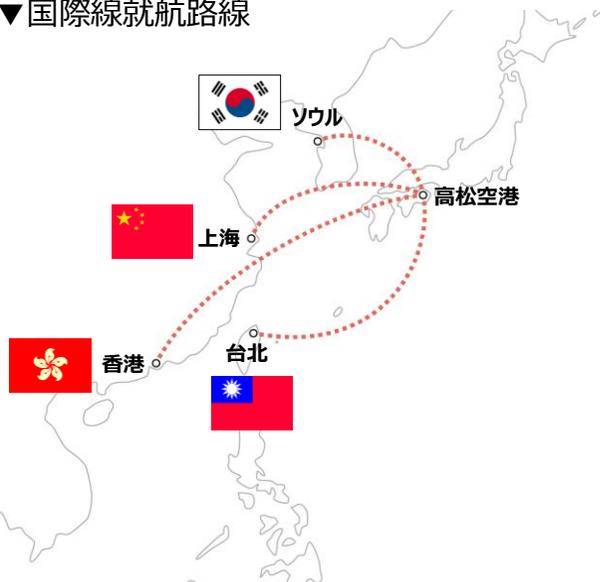
【写真】香川県



H28より新たに
香港線が就航

【写真】香川県

▼国際線就航路線



▼高松空港利用外国人の訪問地

高松空港を利用する
訪日外国人の半数
が香川県内を訪問



調査手法: 調査員による聞き取り調査
調査場所: 全国18空港
調査対象: トランジット、乗員、1年以上の滞在者等を除く
日本を出国する訪日外国人客
調査時期: 平成22年4月～6月調査から四半期毎に実施

【資料】環瀬戸内海地域交流促進協議会資料 (H28.5)

2. 中央通り周辺エリアの動向 – 外国人観光客の増加

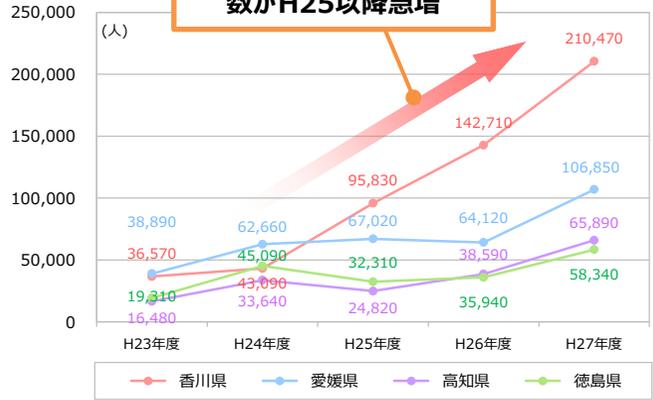
香川・高松の観光客数が外国人を中心に急増

▼四国4県の宿泊客数の推移

▼H26の各都市の外国人宿泊客数と国籍

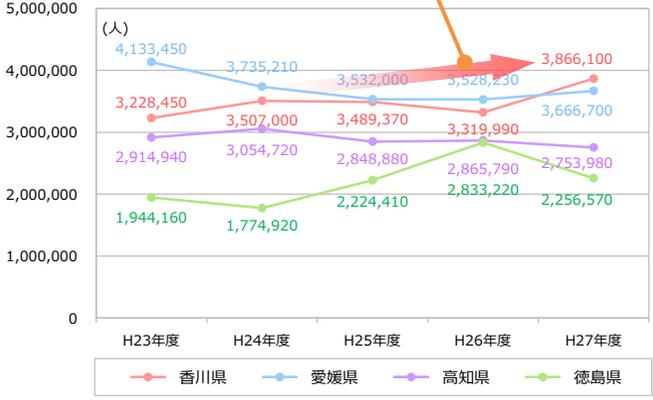
<外国人>

香川県の外国人宿泊客数がH25以降急増

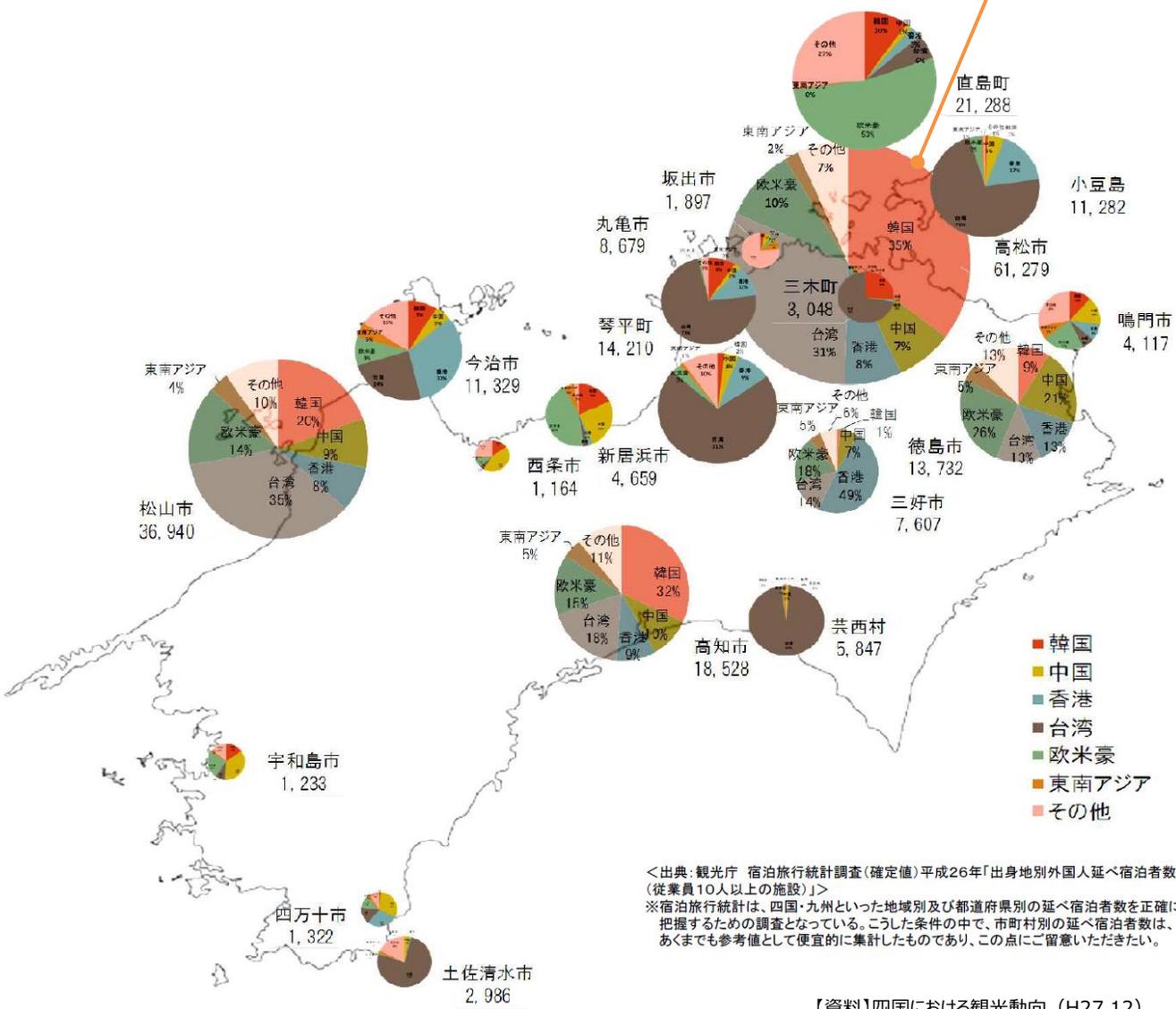


<日本人>

日本人宿泊客数も増加傾向



【データ】観光庁 宿泊旅行統計調査



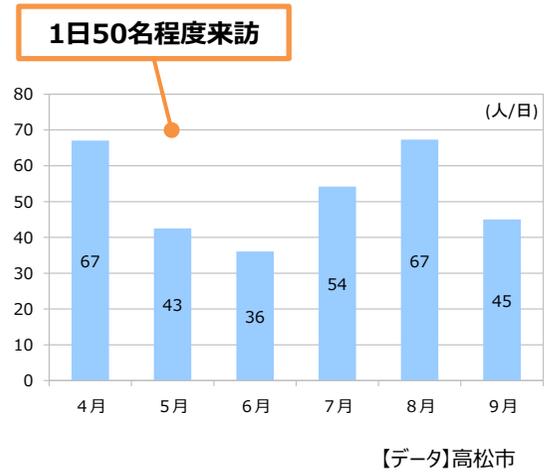
<出典：観光庁 宿泊旅行統計調査(確定値)平成26年「出身地別外国人延べ宿泊者数(従業員10人以上の施設)」>
 ※宿泊旅行統計は、四国・九州といった地域別及び都道府県別の延べ宿泊者数を正確に把握するための調査となっている。こうした条件の中で、市町村別の延べ宿泊者数は、あくまでも参考値として便宜的に集計したものであり、この点にご留意いただきたい。

【資料】四国における観光動向 (H27.12)

2. 中央通り周辺エリアの動向 – 外国人観光客の増加

高松駅ツーリストインフォメーションを各国の旅行者が多数利用

▼ ツーリストインフォメーション来訪者数 (H28.4-9)

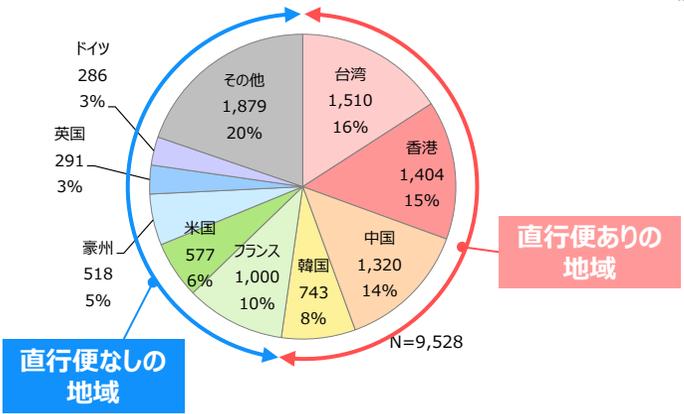


▼ ツーリストインフォメーション国別来訪者数 (H28.4-9)



直行便就航都市以外の旅行者の利用も多く、電車等での旅行者も多く存在するものと考えられる

▼ ツーリストインフォメーションでの案内状況



【データ】高松市

2. 中央通り周辺エリアの動向 – 地域・歴史資源の活用

より歴史や文化財を活用した観光が求められている

▼日本の観光ビジョンでの位置づけ

「明日の日本を支える観光ビジョン」

2. 文化財

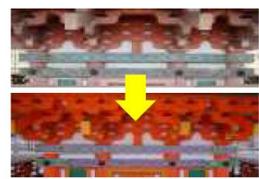
「文化財」を、「保存優先」から観光客目線での「理解促進」、そして「活用」へ
 - 「とっておいた文化財」を「とっておきの文化財」に-



2020年までに、文化財を核とする観光拠点を全国で200整備、わかりやすい多言語解説など1000事業を展開し、集中的に支援強化。



観光拠点の面的整備
 (福島県大内宿の茅葺き民家群)



修復整備の拡充と美化化
 (清水寺三重塔の美化化)



わかりやすい多言語解説
 (日光東照宮新宝物館)



結婚式場等への活用
 (西日本工業倶楽部会館)

文化財の活用を柱の一つに位置付け

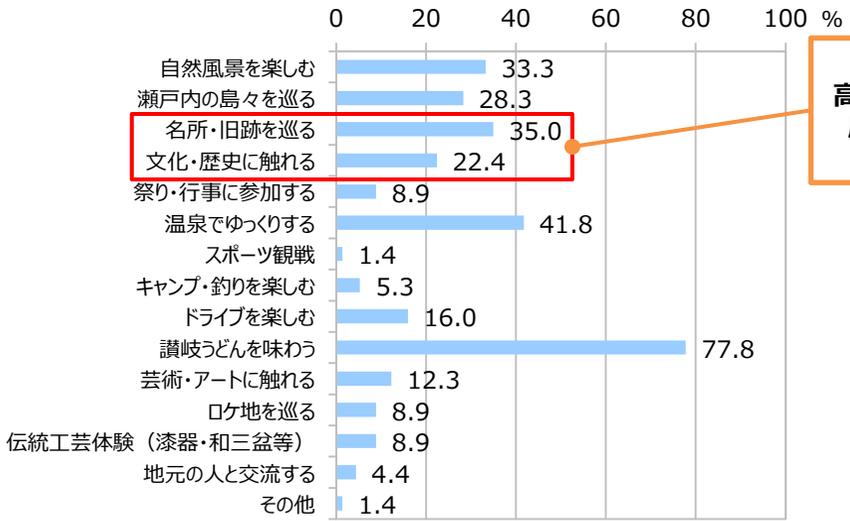
▼高松の観光振興に関するアンケート調査結果 (H24)

<訪問先の選定理由> ※高松への訪問経験者への質問



約4割が、歴史文化に触れることを目的に訪問先を検討

<高松でしてみたいことは何ですか？> ※高松への訪問経験者への質問



来訪者の多くが、高松で名所・旧跡を訪れ、歴史・文化に触れたいと考えている

【資料】「明日の日本を支える観光ビジョン」- 世界が訪れたい日本へ概要 (H28)

【データ】高松市観光振興計画策定に係る事前調査報告書 (H24)

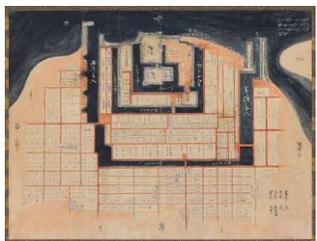
2. 中央周辺エリアの動向－地域・歴史資源の活用

実は豊富なストーリー ～高松城築城から、まちや文化が発展～

▼高松城



【写真】(財)松平公益会



【資料】高松市歴史資料館

- ・1588年 生駒親正が築城開始。
- ・1642年 松平頼重が入城。
- ・水陸の攻防と水運を兼ねて海浜部につくられた。外堀・中堀・内堀に囲まれており、全てに海水が引き込まれた。(日本三大水城の一つ)
- ・藩主は水手御門から小舟に乗船し、沖で御座船に乗換えて参勤交代に出かけた。
- ・現在の面積は約8万㎡で、往時の城域約66万㎡と比べ約8分の1ほど。

【参考】「高松市史」高松市 (S8)
「史跡高松城跡保存整備基本計画」高松市 (H8)
玉藻公園HP 高松市HP

▼常盤橋



【資料】讃岐国名勝図会



- ・高松城の外堀にかかっていた曲輪と城下町を結んでいた木造橋。
- ・浜街道、長尾街道、伊予街道、塩江街道、金毘羅街道の讃岐五街道すべての起点となる交通の要衝であった。
- ・1900年に、外堀が完全に埋め立てられた後、常盤橋の一部の石材が栗林公園入口の橋として使用されている。

【参考】「香川県の歴史散歩」山川出版社 (H25)
石碑「高松城外堀の常盤橋と高札場の辻跡」

▼城下町



【資料】香川県立図書館デジタルライブラリー

- ・本格的に発展し始めたのは生駒正俊が3代藩主となって丸亀から高松に移った時、丸亀の商人を招いてから。こうして丸亀町が誕生。
- ・外廓内の東北部は商工街として日用に便じた本町、工町、魚屋町、材木町等となった。
- ・侍屋敷は六番丁以南の番丁、甕井町、天神前、濱ノ丁等にもおよび、市街の西側を固めた。
- ・市街の周縁には寺院が配置され、濱ノ丁、寺町、北古馬場町等に古刹が並んだ。
- ・その他、磨屋町、紺屋町、大工町等地名に当時の名残を残す。

【参考】「香川県の歴史散歩」山川出版社 (H25)
「高松市史」高松市 (S8)

▼旧香川県庁



【写真】香川県立ミュージアム

- ・1870年 高松城から内町の松平操旧邸へ高松藩庁を移転。翌71年、廃藩置県により高松県庁開庁。
- ・1888年 名東県設立、愛媛県への編入等を経て、香川県成立。
- ・1894年 内町に初代香川県庁舎落成。(現在の四国電力本社、西日本放送本社及びその北側専用駐車場の場所)
- ・1945年 空襲により庁舎が全焼。焼け残った高松高等女学院(現高松高校)で執務。
- ・1956年 県庁舎本館(現在の東館)建築工事起工式を挙げる。

【参考】「香川歴史年表」四国新聞社 (H9)
「高松百年の歴史」高松百年史編纂室 (H2)

2. 中央通り周辺エリアの動向 – 地域・歴史資源の活用

高松城の天守復元に向けた動きも活発化

▼市民の会の活動



高松城の天守復元
目指して署名活動
市民の会、10万人目標

高松城の天守再建を目指しているNPO法人高松城の復元を進める市民の会は、28日、高松市の丸亀町番付街ドーム広場で、復元に向けた機運を高めるため、署名活動を行った。写真1。10万人の署名を目指している。同会は香川の経済や文化、観光などに関わる約150人の市民で構成。天守復元に向けては、オール高松での盛り上げが不可欠と、8月から署名活動を始めている。

この日は同広場で署名活動のキックオフイベントを開き、徳島県内の男性が作詞した高松城がテーマの応援ソングも披露された。その後、同会のメンバー約30人がそろいの法被姿で約3時間にわたって親子連れや買い物客に声を掛け、署名を募っていた。

高松丸亀町商店街振興組合理事長で同会の古川康造理事長は「天守復元は市民一人一人が街の将来を真剣に考える契機でもある。広く賛同を募りたい」と話していた。

署名は同会のホームページでもできる。同会は2018年3月までに10万人の署名を集め、高松市に提出する計画。

天守復元に向けた署名活動を実施

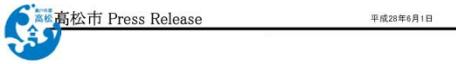
▼天守台の修復



【写真】玉藻公園

高松市が劣化が進行し崩壊が危惧されていた天守台の解体・積み直し工事を実施 (H17-24)

▼資料収集懸賞事業・CG復元



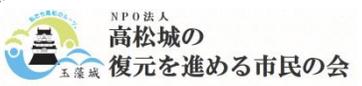
天守復元を目指して!!
【市長定例記者会見】高松城天守復元資料収集懸賞事業

- 目的
高松城は本市市街地の礎であり、国の史跡に指定されています。高松城跡には江戸時代の木造建築物である月見櫓や長輪などが現存し国の重要文化財に指定されていますが、城の中核である天守については明治17年に老朽化により取り壊されました。本市としては、これまで天守復元を目指し資料収集に努めてきましたが、内部の状況が分かる資料が発見されていないことから、文化庁の史跡等における現状変更の許可が得られない状況です。
そこで、明治4年に天守が一般公開された記録も踏まえ、天守復元に必要な内部の状況が分かる古写真や設計図面等を、懸賞金を出して募集したいと考えております。
- 資料
高松城天守内部が分かる古写真及び設計図面等
- 懸賞金額
3,000万円(予定)
懸賞金3,000万円について、6月議会において補正予算案として審議いただきます。
- 募集期間
平成28年7月15日～平成34年3月31日(予定)
- 懸賞金の条件
提供された資料を根拠として、本市が作成した高松城天守復元案が、文化庁の「史跡等における歴史的建造物等の復元の取扱いに関する専門委員会」の審査で認められた場合に、当該資料の提供者に対し、懸賞金を支払います。
提供の提供者の資料をもって天守復元が可能になった場合は、復元資料としての価値により懸賞金を授与します。

復元の実現に向け、資料収集・CGによる復元等を高松市が実施



城を活かしたまちづくりのためのシンポジウムを開催



- 平成21年11月に設立され、平成26年12月よりNPO法人として活動
- 「高松城」を復元する活動を通じて、愛する郷土の歴史を深く勉強するとともに、子どもたちにも、その成果をあらゆる機会に伝承し、郷土愛を育む
- 特に「天守閣」は、歴史・文化の風薫る高松のシンボルとして位置づけ、国内外に情報発信するとともに、復元後は地域の宝として保存・活用されるよう市民の立場に立った活動を進める
- 理事長 古川康造氏

高松市の歴史を伝えるためのシンポジウム

定期講演会 受講料 500円 先着 100名

海城町高松の魅力を活かすまちづくり

平成27年 11月28日(土)
午後1時30分～

丸亀町レッツホール

西成 典久 氏

TEL 087-887-6624

2. 中央通り周辺エリアの動向 – 地域・歴史資源の活用

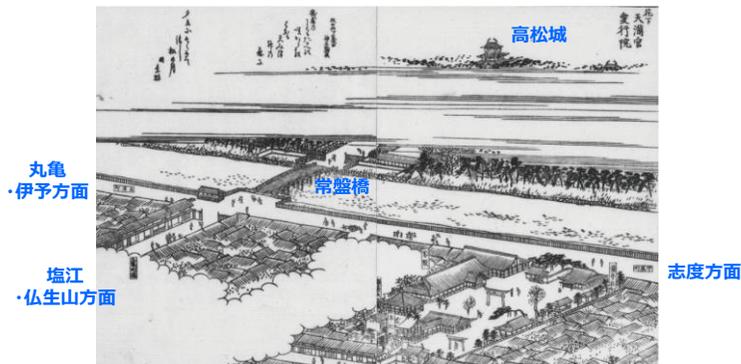
歴史の面影を残すインフラで観光を作り出せるのではないか

＜中央通り周辺の資源の例＞

街道

○常盤橋付近を起点とする讃岐五街道が、城下と各地を結んだ。

▼五街道の起点となった常盤橋付近の様子



【資料】讃岐名勝図会

道路元標

○大正時代、高松市から各地への国道の里程を測る基準点となっていた高松市道路元標が兵庫町交差点に存在。

▼高松市道路元標



遺構

○松平頼重の時整備された上水道の水源が現存。

▼大井戸（瓦町）



城下町の町割り・地名

○高松城を中心とした町割りは、現在も当時の名残をのこす。

▼江戸時代の高松城下（高松城下屏風絵）



【資料】香川県立ミュージアム

2. 中央通り周辺エリアの動向 – まちづくりの方向

海園・田園都市としてのブランドイメージ向上、魅力あるまちへ

▼第六次高松市総合計画

<目指すべき都市像>

活力にあふれ 創造性豊かな 瀬戸の都・高松

- 北は多島美を誇る瀬戸内海、南は緑深い讃岐山脈まで続く、風光明媚で豊かな自然と都市機能が調和した**海園・田園都市**
- コンパクトで持続可能**なまちづくりの礎を築きながら、県都及び広域都市圏の中心市、四国の中枢管理都市として発展
 - 活力を失わず、誰もが暮らしたい、訪れたいと思えるような、**魅力あるまち**として、**次世代に継承**
 - 地域特性をいかしながら、産業振興、経済活性化はもとより、**観光振興**による**交流人口の増加**を図る
 - 文化芸術**・スポーツなど創造的な活動を活発化させ、本市の**都市ブランドイメージ**の向上、**瀬戸の都・高松の魅力**を発信

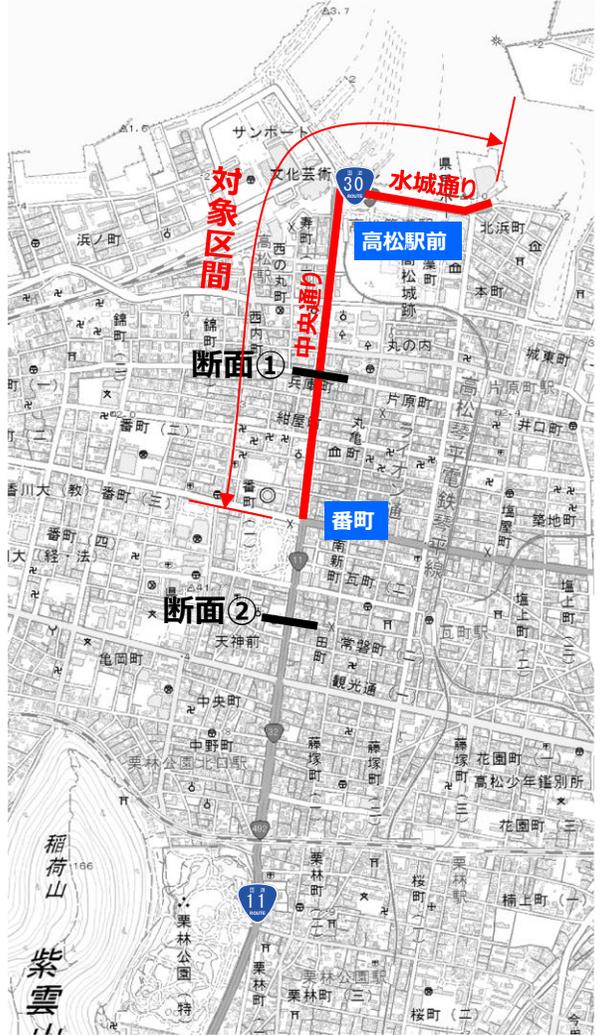
<目標>

- 目標1 健やかにいきいきと暮らせるまち
- 目標2 心豊かで未来を築く人を育むまち
- 目標3 産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち
- 目標4 安全で安心して暮らし続けられるまち
- 目標5 環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち
- 目標6 市民と行政がともに力を発揮できるまち

3. 中央通りの現状・問題点 – 対象区間の概況

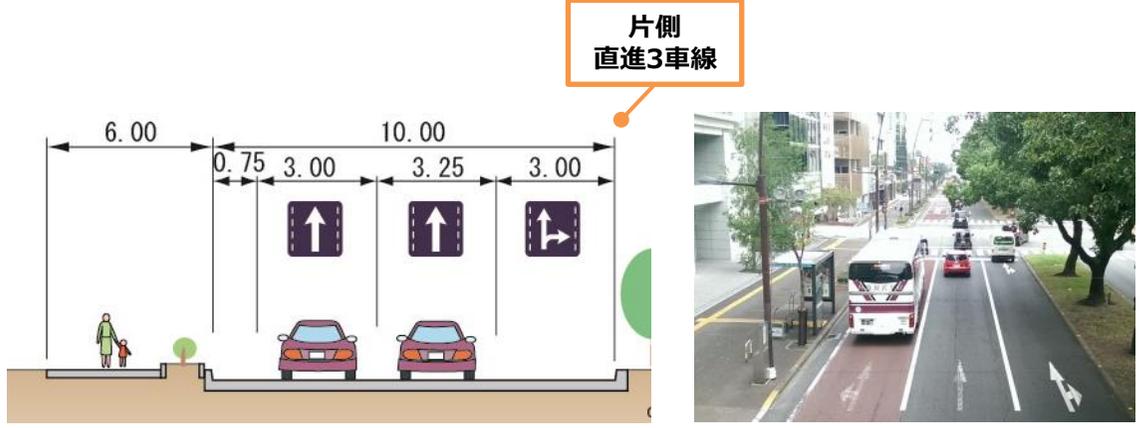
直進6車線、番町以北は自動車少、歩行者・自転車多

▼対象区間の状況

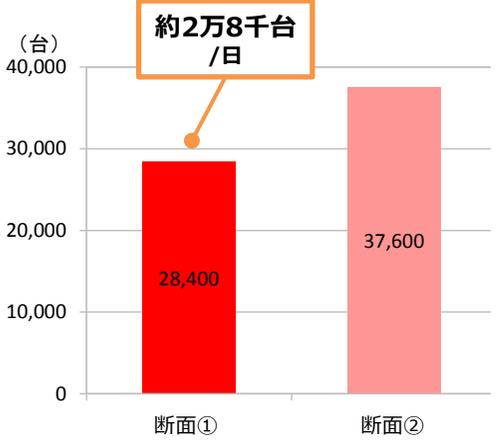


【地図】国土地理院

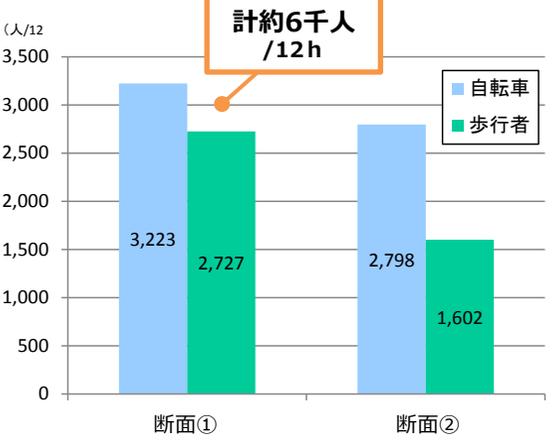
▼中央通りの車線構成 (交差点部)



▼自動車交通量 (台/日)



▼自転車・歩行者交通量 (台/12時間)

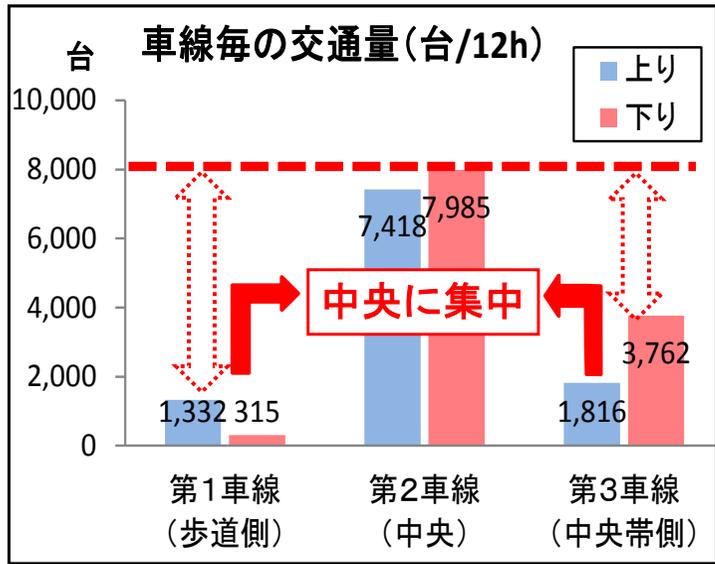


【データ】H22道路交通センサ調査

3. 中央通りの現状・問題点 – 交通機能の視点

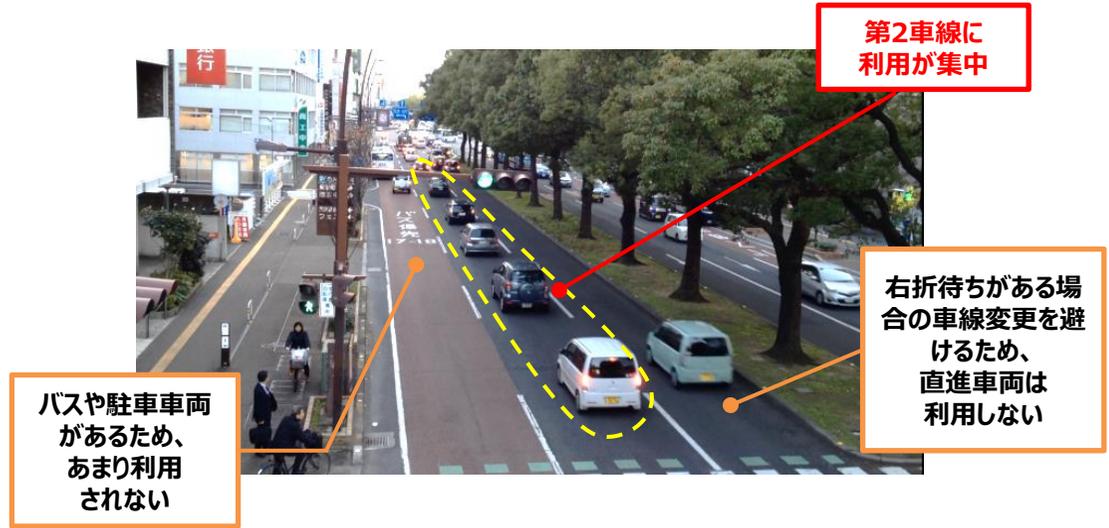
車線利用に偏りが発生、車道空間を有効活用できていない

▼中央通りの車線別交通量



[データ]H16調査データ

▼各車線の利用状況



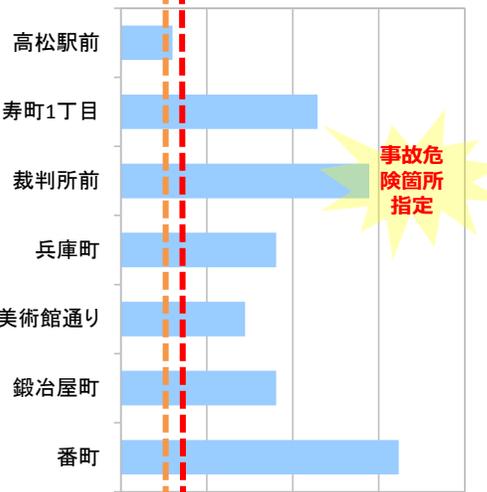
3. 中央通りの現状・問題点 – 交通機能の視点

自動車の事故・渋滞が集中

▼当該区間における事故発生状況



＜各交差点の死傷事故率＞
件/億台キロ

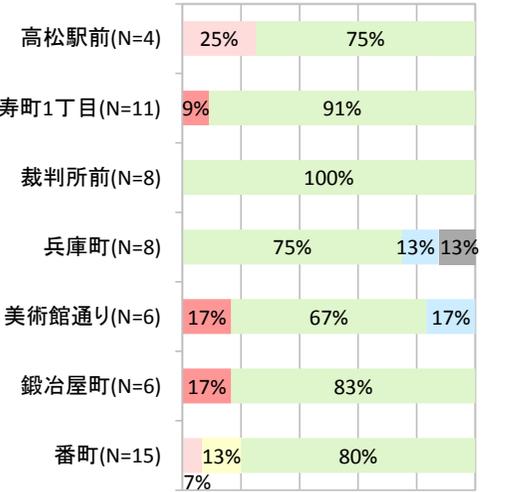


138.9件/億台キロ
香川河川国道事務所管理区間の事故率

100件/億台キロ
事故危険箇所の選定をする際の1つの指標

各交差点部で
追突事故等が多発

＜事故類型（自動車同士の事故）＞



■ 出会い頭 ■ 右折時 ■ 左折時
■ 追越追抜時 ■ 追突 ■ 正面衝突
■ 進路変更時 ■ すれ違い時 ■ 車両単独
■ 人対車両 ■ その他

【データ】H26ITARDA幹線道路データ

▼当該区間における渋滞・混雑の状況



中央通りの交差点
が主要渋滞箇所に
複数選定

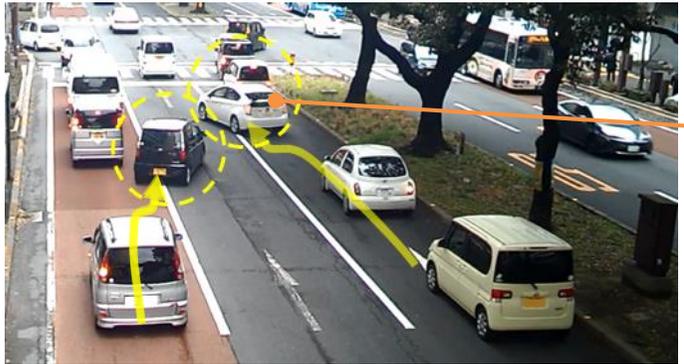
凡例

＜主要渋滞箇所＞
● 箇所
■ 区間
■ エリア

＜道路種別＞
— 高速道路
— 直轄国道
— 補助国道
— 主要地方道
— 一般県道
— その他道路

＜主要渋滞箇所に近隣する主な施設＞
■ 主な工場等
■ 主な大規模商業施設

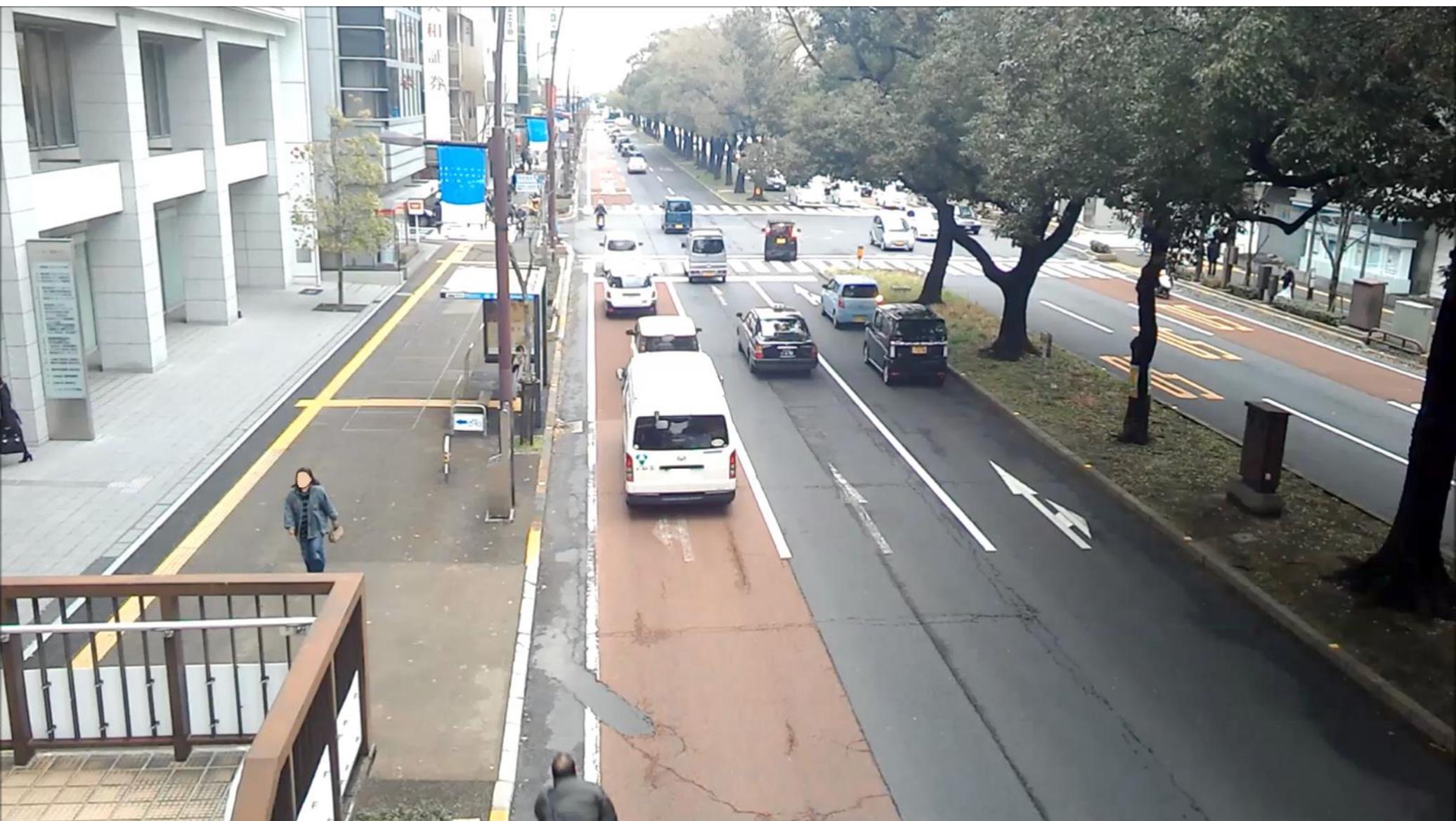
▼交差点手前での車線変更による錯綜状況



右折待ちの車両を避けて
直進するため、
急に車線変更

【資料】国土交通省四国地方整備局

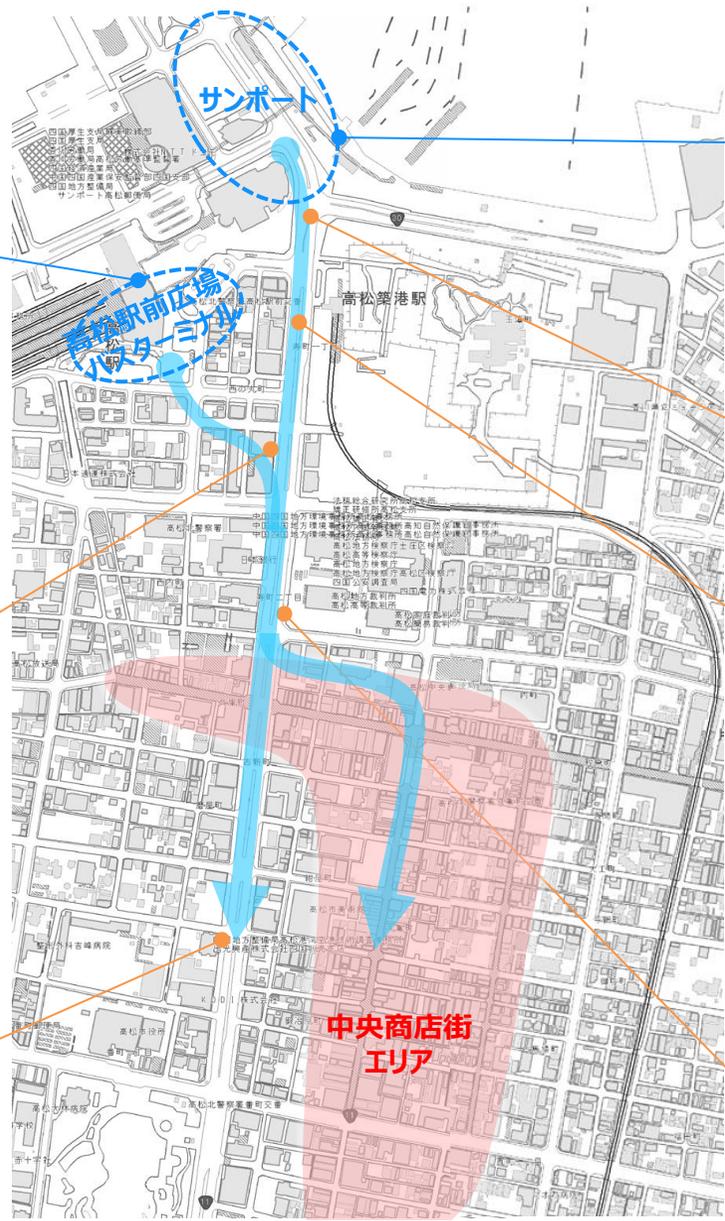
3. 中央通りの現状・問題点－交通機能の視点



3. 中央通りの現状・問題点 – 歩行回遊ネットワーク機能の視点

拠点とまちなかを結ぶメインストリートとして、歩く視点は十分か

■ 高松駅前広場・バスターミナル



■ サンポート

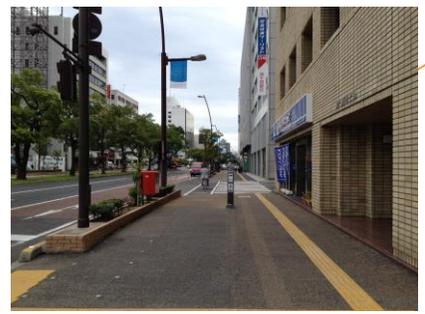


【資料】香川県HP

▼ 中央通り東側の現状



▼ 中央通り西側の現状



【地図】国土地理院

3. 中央通りの現状・問題点 – 歩行回遊ネットワーク機能の視点

バス待ち空間や利用案内は十分か

▼中央通り沿いのバス停



バスベイ型の切り込みにより歩道幅員・バス待ち空間が狭い

バス停施設の意匠が不揃い、屋根やベンチの位置ずれ

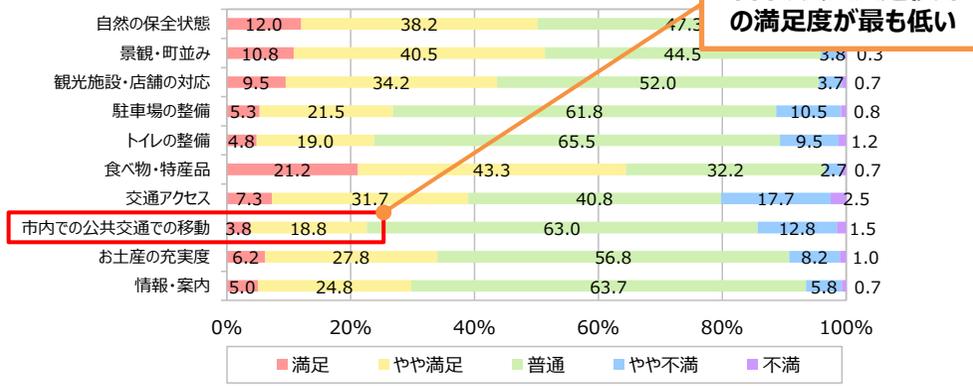
▼バス停での時刻表等の表示



時刻表表示の位置や内容が不揃い



▼高松の観光における満足度



【データ】高松市観光振興計画策定に係る事前調査報告書（H24）

3. 中央通りの現状・問題点 – 案内誘導・情報発信機能の視点

分かりやすく、歴史資源をうまく活用した案内ができているか

▼サンポート付近・中央通りにある案内情報



栗林公園・うどんのキーワードが示されているが、案内・誘導はない



県全体のスポットがあるが、行き方の案内等はない



外国語表記はほとんどされていない

▼サンポート・中央通りに存在する歴史文化等に関する情報



高松城の外堀にかかっていた八雲橋と高松市道路元標の説明



歴史・文化を活かした情報等が分かりやすく目立つ形で設置されていない



遍路の案内

交通機能向上とあわせて、
周辺の**資源を魅力的に繋ぐ**軸となり、
まちの**活力・にぎわい**を生み出す空間へ

<ご意見を頂きたい点・論点>

- 海、港、歴史・文化等の周辺資源を活かした、
魅力的な道路空間のあり方
 - より交通機能を高める、賢い道路空間の使い方
- 等